



健やか豆知識 第21回

Q. **中耳に水が溜まる**
しんしゅつせい
滲出性中耳炎の症状は？

- Ⅰ 耳の痛み Ⅱ 耳だれ Ⅲ 耳の聞こえにくさ



高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —
高田製薬株式会社

お子さんのかぜの後の「聞こえにくさ」に注意を。

中耳炎とは、ウイルスや細菌が中耳に入り、炎症を起こしている状態です。中耳炎には、急性中耳炎と滲出性中耳炎があり、小学校に入るまでに約9割の子供が、どちらか、あるいは両方の中耳炎にかかるといわれています。急性中耳炎は、かぜが原因の場合が多く、鼻やのどに付着したウイルスや細菌が、耳と鼻をつなぐ耳管から鼓膜の内側(中耳)に入って炎症が起こります。症状は突然の耳痛、発熱のほか耳だれが出ることもあります。滲出性中耳炎は、中耳に水(滲出液)が溜まって耳が聞こえにくくなる病気です。急性中耳炎が完治していなかったり、かぜや副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎など、のどや鼻の慢性的な炎症が続いていたりするとうまく水が排出できず滲出性中耳炎になることがあります。症状は耳の痛みや発熱、耳だれはなく、難聴(聞こえにくい)や耳閉感(耳が詰まった感じ)ですので、大人にとって気づきにくく、発見が遅れることがあります。耳鼻咽喉科では滲出性中耳炎に対し、水の排泄を促す飲み薬や、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎を合併している場合はそれらの治療を行います。子どもの難聴の一番の原因は滲出性中耳炎です。保護者はお子さんがかぜや急性中耳炎を起こした後、耳の聞こえの状態を注意してみてください。幼児期は、言語の習得や知識を吸収する大切な時期です。軽い難聴であっても、それらに影響することがあるため、呼んでも返事をしない、話しかけてもボーッとしている、聞き間違いや聞き返しが多い、テレビの音を大きくしたがる、耳をよく触るなどの様子がみられれば、一度、耳鼻咽喉科を受診しましょう。

監修 伊藤 真人 自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児耳鼻咽喉科 教授

さらに詳しい情報は [ホームページで!](#)



< 正解 Ⅲ 耳の聞こえにくさ >

クイズの解説

滲出性中耳炎の症状は、耳の聞こえにくさ(難聴)と耳閉感(耳の詰まった感じ)で、急性中耳炎のような耳の痛みや耳だれはありません。

Ⅰ 耳の痛み(耳痛)は、急性中耳炎の最も典型的な症状で、ほか、Ⅱ 耳だれが出ることや、耳閉感、発熱を伴うこともあります。一方、滲出性中耳炎は、急性中耳炎のような**耳の痛み**や**耳だれ**などのわかりやすい症状はなく、ほとんどが Ⅲ **耳の聞こえにくさ(難聴)**だけです。滲出性中耳炎による難聴の程度は軽度から中等度ですが、この程度の難聴は周りの人や保護者が気づきにくいことも多く、発見が遅れることがあります。普段の生活の様子から、難聴に早く気づいてあげることが大切です(右図参照)。

急性中耳炎の治療は、原因が細菌によるものであれば抗菌薬を服用します。また熱が出ている場合は解熱薬を、痛みがひどいときは鎮痛薬を服用します。滲出性中耳炎の治療は、まずはカルボシステインという、中耳に溜まった水の排泄を促す飲み薬を使います。またアレルギー性鼻炎や副鼻腔炎を合併している場合は、それらの治療薬を服用します。こうした保存的治療を3か月以上続けても治らない場合は、中耳に溜まった水を排泄する外科治療を行うこともあります。滲出性中耳炎にならないためにも、普段から鼻すすりをしない、急性中耳炎になったら完全に治す、耳だけでなく鼻やのどの病気もしっかり治療する、体調管理をしっかりするようにしましょう。

	主な症状	サイン
急性中耳炎	<ul style="list-style-type: none"> 発熱 耳の強い痛み 耳だれが出ることもある 	<ul style="list-style-type: none"> 症状を言葉で伝えられない年齢では、突然泣き出す、耳を触る、不機嫌になるなどを示すことがある
滲出性中耳炎	<ul style="list-style-type: none"> 耳の聞こえにくさ(難聴) 耳閉感(耳の詰まった感じ) 	<ul style="list-style-type: none"> 呼んでも返事をしない 話しかけてもボーッとしている 聞き間違いや聞き返しが多い テレビの音を大きくしたがる 耳をよく触る

<伊藤先生からのメッセージ>

重度の難聴で明らかに聞こえない場合は、周りの人や保護者からわかりやすく、治療に結びつきやすいのですが、軽度から中等度の難聴は、「いつもボーッとしている」、「言っていることが理解できない」と思われがちです。しかし、子ども自身はかんばって聞こうとする気もありますが、指示がうまく入らないために苦労していることがあります。特に乳幼児期は言語を習得したり、知識を吸収したりしていく大切な時間です。「聞こえにくさ」を子どものキャラクターや精神的な問題としないで、滲出性中耳炎のような耳の病気からくる難聴があることを、知っておいてほしいと思います。